

属人化した在庫管理から脱却
「在庫を気にする日常」からの解放を実現

MISUMI
flow

淀川ヒューテック株式会社



淀川ヒューテック株式会社

社名 淀川ヒューテック株式会社
業種 精密部品
従業員数 850名(関連会社270名)

淀川ヒューテック
株式会社様の
インタビュー全編は
こちら →



Point



時間削減効果：在庫管理の手間削減



コスト削減効果：商品集約により年間約170万円、約30%コスト削減



在庫管理業務削減効果：メンタルコストからの解放

導入前の課題

属人化した管理が現場と購買担当の負担に

海部さま：大阪工場では、1日に3回ほど在庫棚を目視で確認し、「そろそろなくなりそう」というタイミングで注文していました。誰がいつどれだけ使ったか分からず、朝チェックしても昼には大きく減ることもあり、常に在庫を気にし続ける精神的負担がありました。また、同じアイテムでも部署ごとに注文タイミングが異なり、注文や受け入れ作業の手間が大きくなっていました。

阪下さま：滋賀工場では、第1工場にしか在庫管理担当者がいないため、届いたアイテムを第2工場まで運ぶ手間が課題でした。各部署共通の消耗品は、持ち出すたびに記録が必要で管理に手間がかかっていました。注文ロットの大きいアイテムは長期保管となり、特に大阪工場では保管スペースの確保が難しい状況でした。

導入の決め手

現場の課題とDX方針が重なり導入へ

阪下さま：MISUMIの営業担当者からもらったチラシでサービスを知り、「自販機で消耗品を購入できるなんて」と驚きました。社内で業務効率化やDX推進の流れが強まっていたこともあり、「今の方針に合う」と感じました。一般的な在庫管理システムは数値の見える化だけで注文作業は自社対応ですが、この仕組みなら管理から補充まで一貫して任せられる利便性がありました。在庫を必要なタイミングで確実に入手でき、生産性向上や余分な在庫削減、保管場所の見直しにもつながりました。

海部さま：注文書の発行や確認、注文から荷受けまで全て自動化されるのは非常にありがたかったです。共通アイテムも自販機で一括管理でき、個別対応の手間がなくなります。また、滋賀工場で両方の工場に自販機を設置したことで、物品運搬が不要となり現場負担も軽減。設置場所も現場の社員が比較的良好に通る位置を選ぶことで、移動の手間も最小化できました。

阪下さま：MISUMIは即納対応や多品種・小ロットなど、サービス面が非常に充実している分、価格が高いという印象があったのも事実です。しかし、導入後の業務負担の軽減や全体コストの最適化といった観点で見れば、その価値は十分にあると判断しました。

導入後の効果 / 社内の反応

想像以上のコスト削減と管理効率の両立を実現

海部さま：以前は「在庫がどれくらいあるか」「なくなったらどうしよう」と常に気にしており、月末は、勤怠や他の業務と注文作業が重なり大変でした。自販機導入以降は安心してコア業務に集中できています。また、在庫の見える化により、どの部署がどれだけ使ったか、残数もすぐ把握でき、急な消費増にもミスマチが対応してくれるので在庫切れの心配もなく助かっています。

阪下さま：バラつきのあった商品や仕入先をミスマチに一本化できたことは業務効率化に大きく寄与しました。共通アイテムの見直しや統一も、現場での評価を経てスムーズな切り替えができました。仕入先の集約で調達コスト・管理の手間も減り、想定以上の効果を実感しています。運用ルールも共通化され、部署や工場をまたいで標準化・管理効率が向上しました。

今後の展望

在庫管理の最適化を全社規模に広げたい

阪下さま：生産活動では間接資材や梱包材の在庫切れが納期遅れのリスクになります。今回は各部署で共通してよく使うアイテムに絞って自販機で一括管理したことで、在庫切れリスクを抑えつつ備蓄量の最適化や現場の効率化を実現できました。今後は他工場とも連携し、対象品目をさらに増やしていきたいと考えています。

海部さま：運用する中で「この品目も自販機管理できればさらに効率化できる」と感じる場面が増えました。注文ロットが大きいものや使用頻度が不安定な品目も「MISUMI flow」で管理できると良いと思います。今後は蓄積された利用データを分析し、使用傾向や補充頻度の見直しに活かしていきたいです。

